

第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略
進捗状況報告書
2023年度（令和5年度）

令和6年9月
大村市

目 次

1	基本目標の達成状況	P1
2	基本目標ごとの達成状況		
	基本目標 1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	P2～3
	基本目標 2 安心して働けるまちづくり	P4～7
	基本目標 3 住んでみたい、訪れてみたいまちづくり	P8～9
	基本目標 4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり		P10～11
<参考 1>	第 2 期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・重要業績評価指標 (KPI) 一覧 (年度毎)	P12～13
<参考 2>	大村市の人口推移	P14

第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況報告（2023年度）

本市の更なる発展と活力のある地域社会構築のため、2025年に人口10万人を目指す「大村市人口ビジョン」及び「第1期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015～2019年度）」を2015年12月に策定し、様々な取組を実施した。

そして、第1期総合戦略の取組実績や国の施策、本市を取り巻く状況等を踏まえ、2020年3月に「第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2020～2025年度）」を策定した。（※2021年3月に一部改訂）

「第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、4つの基本目標の実現に向け、6つの数値目標と27の重要業績評価指標（KPI）を掲げ、毎年、進捗状況（実績）を取りまとめることとしており、本報告は、4年目となる2023年度の実績を示すものである。

1 基本目標の達成状況

基本目標に掲げる6項目の数値目標の4年目（2023年度）における実績は、以下のとおりの目標達成となった。

基本目標	数値目標	基準値	2020（R2）年度		2021（R3）年度		2022（R4）年度		2023（R5）年度	
			目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり	合計特殊出生率を、2025年までに2.0	1.90 (2018年)	1.90	1.72 (2019年)	1.92	1.75 (2020年)	1.94	1.77 (2021年)	1.96	1.76 (2022年暫定値)
安心して働けるまちづくり	大村市産業支援センター又は創業塾を介した創業件数を、2025年度までに累計105件	74件 (2019年度)	80件	87件	85件	94件	90件	99件	95件	104件
	新工業団地への就業者数を、2025年度までに1,000人	0人 (2019年4月分譲開始)	500人	33人	1,000人	43人	1,000人	57人	1,000人	58人
	農林水産業の新規就業者数を、各年度16人増加	16人 (2018年度)	16人	23人	16人	17人	16人	16人	16人	9人
住んでみたい、訪れてみたいまちづくり	観光客延数を、2025年までに年間260万人	197万人 (2018年)	210万人	155.9万人	217.7万人	163.6万人	228.3万人	182.3万人	238.8万人	198.5万人
ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり	転入超過数を、2025年までの6か年間で5,000人	402人 (2015～18年の4年間1,606人の年平均)	500人	385人	1,000人	995人	2,000人	1,593人	3,000人	2,136人

2 基本目標ごとの達成状況

基本目標1 結婚・出産・子育ての希望をかなえるまちづくり

数値目標	(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
	(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
合計特殊出生率を、2025年までに2.0	1.90 (2018年)	1.90	1.72 (2019年)	1.92	1.75 (2020年)	1.94	1.77 (2021年)	1.96	1.76 (2022年 暫定値)
	2								
KPI	(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
	(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
1 お見合いシステム、縁結び隊による引き合わせ数	98組/年 (2018年度)	120組/年	83組/年	120組/年	93組/年	120組/年	145組/年	120組/年	130組/年
	120組/年								
2 妊婦健診受診率	95.90% (2018年度)	95.40%	95.10%	95.70%	93.10%	96.00%	93.20%	96.30%	94.20%
	97.00%								
3 待機児童数	70人 (2018年度)	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	0人								
4 放課後児童クラブを利用する児童数	1,746人 (2018年度)	2,241人	1,841人	2,261人	1,889人	2,285人	1,950人	2,299人	2,009人
	2,317人								
5 子育て支援センターの利用者数	113,468人 (2018年度)	142,000人	34,789人	142,000人	36,094人	142,000人	41,484人	142,000人	62,135人
	142,000人								
6 全国学力・学習状況調査(中学国数英・小学国算)平均正答率の全国比(全国を100とした値)	中学 国語 97.0 数学97.8 英語93.8 小学 国語 93.8 算数94.5 (2019年度)	100	未実施	100	中学 国語 94.4 数学96.2 英語— 小学 国語 100.5 算数96.9	100	中学 国語 98.6 数学89.5 英語— 小学 国語 99.1 算数96.5	100	中学 国語 100.3 数学94.1 英語87.7 小学 国語 99.7 算数92.8
	100								
7 学校評価のふるさと教育の項目において、「よい」と評価した児童生徒の割合	71.60% (2019年度)	72.00%	73.60%	72.50%	80.70%	73.00%	79.60%	74.00%	69.60%
	76.00%								

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 令和5年9月から毎月2日を「こんかつーの日」として「大村市婚活サポートセンター」個別相談会を実施したことによりセンター来所相談数が増加した。また、SNSを活用した周知等により、若年層の登録者数が増加したことが、目標値を上回った要因と考えられる。
- 2 妊婦健診受診率は、2022年度に引き続き目標値を下回った。支援が必要な妊婦を早期に把握し保健指導を行うとともに、妊婦健診未受診者に対し、通知や電話により受診勧奨を行っている。
(妊婦健診受診率(%)) = 1回目の妊婦健診受診数 ÷ 妊娠届出数 × 100
- 3 KPIとしている「4月1日時点の待機児童数ゼロ」は達成できた。
2020年度から大村市こどもセンターに保育コンシェルジュを配置し、保育施設の入所待ち児童に対しマッチングを行うとともに、保育施設の入所や保育に係る全般的な相談を受け、待機児童の解消に努めている。
- 4 放課後児童クラブを利用する児童数は目標値を下回ったものの増加傾向にあることから、放課後児童クラブの利用児童数の増加に対応するため、新たに1クラブの新規開設を行い、全体で56クラブとした。
- 5 こども未来館おむらんどをはじめとする地域子育て支援センター（市内11か所）の利用者数は、2022年度に引き続き目標値を大幅に下回ったものの、利用者数は増加している。
今後も引き続き、様々な不安や悩みを抱えた家庭の子育て支援に対応できるよう、地域子育て支援センターを拠点とした子育て支援事業を推進する。
- 6 全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国比は、中学国語以外の教科で目標値を下回った。
※小学国算・中学英国数の合計値：(2019) 95.3 ⇒ (2023) 94.9
小・中学校教育 ICT 環境整備事業において、児童生徒1人1台のタブレット端末を活用した授業を推進するとともに、学習教材（ソフト）コンテンツの充実、活用支援（教員研修、情報共有）を行った。
英語力向上対策事業においては、教職員向けの研修を実施するとともに、ALT（外国語指導助手）を活用した英語力向上につながる行事を実施した。
- 7 ふるさと教育の充実のため、小学校3・4年生の社会科副読本「わたしたちの大村市」を発行し、地域学習の浸透を図っている。
小学校での郷土史クラブの時間が少なく、研究を深めることが困難なため今後は、学校及び保護者の了解を前提に、夏休みに市の学芸員とともに大村の歴史について調査・研究活動を行うことを検討している。

基本目標 2 安心して働けるまちづくり①

数値目標		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
大村市産業支援センター又は創業塾を介した創業件数を、2025年度までに累計105件		74件 (2019年度)	80件	87件	85件	94件	90件	99件	95件	104件
		105件								
新工業団地への就業者数を、2025年度までに1,000人		0人 (2019年4月分譲開始)	500人	33人	1,000人	43人	1,000人	57人	1,000人	58人
		1,000人								
KPI		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
1	じげたまグランプリ (隔年開催) 出展商品数	14点/年 (2019年度)	14点/年	14点/年	16点/年	19点/年	16点/年	19点/年	18点/年	12点/年
		20点/年								
2	産業支援センターへの年間相談件数	853件 (2018年度)	900件	934件	900件	758件	900件	672件	900件	503件
		900件								
3	大都市での物産展来場者数	30,106人 (2018年度)	24,500人	0人	25,500人	0人	26,500人	5,774人	27,500人	40,390人
		30,000人								
4	市内高校卒業者の市内企業への就職率	16.50% (2019年度)	16.90%	20.30%	17.20%	20.10%	17.90%	17.00%	18.60%	16.60%
		20.00%								
5	新工業団地売却区画数	1区画 (2019年度)	2区画	1区画	4区画	2区画	4区画	3区画	4区画	3区画
		4区画								
6	大村市シルバー人材センター会員数	732人 (2018年度)	750人	731人	780人	754人	811人	744人	843人	737人
		900人								

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 大村商工会議所主催のおおむらじげたまグランプリは隔年開催となり 2023 年度は開催年であった。出展商品数は目標数を下回ったが、引き続き大村商工会議所と連携しながらグランプリ受賞商品を中心に、首都圏、市内外での物産展、インターネットやマスコミ等を通じて広く紹介し販売促進を図るとともに、大村産品として広く市民に周知し、じげたまブランドを強化していく。
- 2 産業支援センターへの相談件数は目標値を下回った。

2022 年 5 月に設置した大村市産業相談支援体制協議会において、本市の産業実情に即した今後の相談支援体制のあり方について協議を行った。その結果を踏まえ、2023 年度からセンターの運営は大村商工会議所に委託となったことから、大村商工会議所をはじめ相談内容に応じて各支援機関と連携し、専門機関へつなぐことを含め、相談体制の更なる強化を図るとともに、事業者支援に係る情報を積極的に発信していく。
- 3 令和 5 年度は、これまでも行っていた東京・日本橋長崎館での物産展 1 回（3 日間）に加え、福岡・博多阪急で 5 日間の大都市イベントを実施したことで、物産展来場者数は目標値を大幅に上回った。
- 4 市内高校卒業者の市内企業への就職率は、市内高等学校の進路担当者及び市内事業者を交えた意見交換を対面により 2 回実施し（2016 年度以降年 1～2 回、対面又は書面にて実施している）、さらに、市内の高校 2 年生を対象に市内企業説明会を 1 回実施（2017 年度以降毎年 1 回実施。、2022 年度は天候不良のため中止）するなど、就職支援に取り組んだものの目標地を下回った。

（市内企業への就職率（%）＝市内企業への就職者数÷卒業生総数×100）
- 5 2019 年 4 月から 4 区画 12.4 ヘクタールを分譲開始した新工業団地は、第 2 区画 1.7 ヘクタール（2019 年度・2023 年度に嶋本ダイカスト㈱へ売却）、第 4 区画約 4.1 ヘクタール（2021 年度に伸和ホールディングス㈱へ売却）に続き、2022 年度に第 3 区画約 4.2 ヘクタールを佐々木商店（株）（※お多福グループの資産管理会社。同グループの（株）ナカガワの工場が立地予定）へ売却した。

残りの 1 区画へ多くの雇用を期待できる企業を誘致することに注力する。
- 6 大村市シルバー人材センターの会員数は、市内のケーブルテレビでの CM 放映などの取組が行われたものの、目標値を下回った。しかしながら、当センターは入会率や就業率などにおいて全国トップクラスの実績を上げている。

基本目標 2 安心して働けるまちづくり②

数値目標		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
農林水産業の新規就業者数を、各年度16人増加	16人 (2018年度)	16人	23人	16人	17人	16人	16人	16人	16人	9人
	16人									
KPI		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
7 認定農業者数	223人 (2018年度)	255人	209人	267人	210人	280人	212人	287人	217人	
	300人									
8 認定農業者の平均農業所得	435万円 (2018年度)	460万円	422万円	472万円	447万円	484万円	450万円	496万円	450万円	
	520万円									
9 農業及び水産業イベント来場者数	27,000人 (2018年度)	27,000人	8,898人	27,250人	3,805人	27,500人	30,338人	27,700人	28,747人	
	28,000人									
10 市産品応援店数	0件 (2018年度)	5件	6件	6件	6件	7件	7件	8件	6件	
	10件									

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 7 認定農業者数は、高齢化に伴う離農者の増加により目標値を下回った。このため、認定農業者に対する融資や補助など国からの支援制度と別に、2020年度から市独自の補助制度を設け認定農業者の育成と支援を行っている。
- 8 認定農業者の平均農業所得は、農作物の需要の減少や、資材等の高騰による経費増加により伸びず、目標値を下回った。
- 9 農業及び水産業イベント来場者は、「おおむら海と大地の感謝祭」「浜んこらあさいち」「牧場まつり」などのイベント開催によって水産物・畜産物等の販売促進・PRを行うことができ、目標値を上回った。
- 10 市産品応援店数は、1店舗が大村市で開業するため閉店したことから2022年より減少し、目標値を下回った。
今後、東京事務所等と連携し、市産品応援店となりうる店舗の情報提供を受け、訪問等により市産品応援店登録へと進めていく。

基本目標3 住んでみたい、訪れてみたいまちづくり

数値目標	(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
	(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
観光客延数を、2025年までに年間260万人	197.0万人 (2018年)	210.0 万人	156.0 万人	217.7 万人	163.6 万人	228.3 万人	182.3 万人	238.8 万人	198.5 万人
	260.0万人								

KPI	(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
	(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
1 市内宿泊施設の延べ宿泊者数	379,939人 (2018年)	391,000 人	332,199 人	403,000 人	345,943 人	415,000 人	392,164 人	427,000 人	433,337 人
	450,000人								
2 外国人観光客宿泊者数	2,257人 (2018年)	2,710 人	460 人	3,180 人	213 人	3,650 人	310 人	4,080 人	986 人
	5,000人								
3 移住・定住相談件数	63件 (2018年度)	120件	117件	120件	147件	120件	141件	120件	135件
	120件								
4 移住件数（大村市及びながさき移住サポートセンターを介した移住件数）	34件 (2018年度)	36件	47件	36件	76件	36件	73件	36件	76件
	36件								

【主な取組の進捗状況、課題等】

1 市内宿泊施設の延べ宿泊者数は、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、夏越まつりや「ご当地自慢グルメフェア」などの大型イベントが開催されたこと、また人流の活発化などで目標値を上回った。

2 外国人観光客宿泊者数は、目標地を大幅に下回ったが2022年度からは増加している。

このような中、令和5年11月4日・5日に東京八王子市で開催された「日本遺産フェスティバル in 八王子・桑都」において、シュガーロードのリーフレット・パンフレット等の配付、ポスター掲示に加え、沿線8市のお菓子をノベルティ配付、シュガーロードプロモーション動画（R4制作）の放映を行った。

また、同月12日にはシュガーロードをテーマとしたウォーキングイベントを行った。そのほか、シュガーロードの認知度向上や誘客促進を図るため、るるぶ九州ベスト'25に、シュガーロードのストーリーや沿線8市の銘菓、周遊ルートを掲載し、情報発信を行った。

3・4 移住・定住の相談件数及び移住件数は、都市在住者の地方への移住志向が高まったことも要因となり、2022年度に引き続き目標値を上回った。

また、2018年度から移住相談者のワンストップ窓口として設置した「移住コーディネーター」による寄り添い型支援を引き続き行うとともに、毎月10日の「イジューの日」には、プラットおおむら内の移住相談窓口として開設した「暮らしコンシェルジュ」等において移住相談会を開催し、移住後の相談等も含め幅広く対応している。

2024年2月には長崎空港にて「ソラシドマルシェ in 長崎空港」として、おおむら暮らしのプロモーションを行ったほか、2020年度にリニューアルしたおおむら暮らしHPやInstagram・新たに開設したユーチューブチャンネルに、おおむら暮らしの魅力を伝える動画や写真を積極的に掲載し、情報発信の充実を図った。

基本目標 4 ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的なまちづくり

数値目標		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
転入超過数を、2025年までの6か年間で5,000人		402人 (2015~18年の4年間1,606人の年平均)	500人	385人	1000人	995人	2,000人	1,593人	3,000人	2,136人
		5,000人								
KPI		(上)基準値	2020 (R2) 年度		2021 (R3) 年度		2022 (R4) 年度		2023 (R5) 年度	
		(下)2025(R7)年度目標	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
1	道路や公共交通の利用に関する市民満足度	39.20% (2018年度)	40.00%	47.20%	42.00%	42.90%	44.00%	48.10%	46.00%	39.40%
		50.00%								
2	中心市街地歩行者通行量	6,264人/日 (2019年度)	7,125人/日	5,756人/日	7,160人/日	7,520人/日	7,195人/日	6,823人/日	7,230人/日	6,668人/日
		7,300人/日								
3	「道の駅 長崎街道 鈴田峠」の年間利用者数	234,552人 (2018年度)	246,000人	146,152人	246,800人	150,142人	247,600人	144,006人	248,400人	139,678人
		250,000人								
4	大学等との連携協定数	4件 (2018年度)	4件	4件	4件	5件	4件	5件	4件	7件
		5件								
5	自主防災組織の結成率	54.70% (2018年度)	56.50%	58.10%	57.20%	58.00%	57.90%	58.30%	58.60%	62.10%
		60.00%								
6	65歳以上の中・重度要介護認定者の割合	31.20% (2019年度)	30.80%	30.80%	30.80%	31.40%	30.80%	30.00%	30.80%	30.20%
		30.80%								

【主な取組の進捗状況、課題等】

- 1 道路や公共交通の利用に関する市民満足度については、目標値を下回った。

道路や公共交通の利用に関する市民満足度(%)

= 「大村市のまちづくりに関する市民満足度調査」において「道路網の整備と公共交通の利便性向上」政策に対する「満足」「やや満足」の回答数÷回答総数（無回答数含む）×100

※選択肢は「満足」「やや満足」「わからない・どちらともいえない」「やや不満」「不満」

新幹線開業や市庁舎の移転などの周辺環境の変化や社会状況の変化などを踏まえ、本市の公共交通のあり方を検討し、持続可能な公共交通体系の構築を行うため、2024年3月に地域公共交通計画を策定した。

また、2022年9月23日に開始した、長崎空港-新大村駅-大村インターチェンジを結ぶ乗合タクシーの実証運行を通じて、利用者から予約不要で人数制限の少ない路線バスの運行を求める声が多かったため、2023年10月29日から西肥バス 長崎空港線を新大村駅前経由とすることで、長崎空港～新大村駅間の2次交通の確保を行った。

- 2 プラザおおむらをメイン会場とした「高校生フェス IN プラザおおむら」を開催し、ミライ on においても大村市内の高校生による展示を行うなど、ミライ on との連携のもと賑わい創出を図る試みを行った。しかしながら中心市街地歩行者通行量は、目標値を下回った。

- 3 「道の駅 長崎街道鈴田峠」の年間利用者数は、2021年度に引き続き目標値を下回った。

道の駅 Instagram を活用した観光・イベント情報の発信を行い、全国道の駅連絡会の健活プロジェクト事業の一環として、明治安田生命保険の協賛を得て秋の収穫祭を開催した。また、長崎街道鈴田峠においてシュガーロードのPRを行い、春のスイーツまつりを開催した。

情報発信スペースにおいては、魅力あるイベントの開催、また飲食スペースについては、売上増のため、大村の特色や魅力を生かした飲食物の開発や提供が必要であると考えている。

- 4 【連携協定等締結大学】：長崎大学、活水女子大学、鎮西学院大学、長崎国際大学、慶応義塾大学
2023年度に新たに長崎総合科学大学と包括連携協定を、日本体育大学と連携協定を締結した。

県が開催する「地域と大学等の連携推進会議」等において、県内各市町と情報共有を行っている。また、本市と包括連携協定を締結している各大学との連携による地域課題の解決に向けた取組を模索している。

- 5 2023年度中に、新たに1組織が結成され、自主防災全体の組織数は93となり、2022年度に引き続き目標値を上回る結果となった。（結成率(%) = 結成組織所属世帯数÷市内全世帯数×100)

町内会等への防災講話を通じ、自主防災組織の重要性及び必要性を説明している。

- 6 高齢者の健康づくりと介護予防の推進のため、老人会等に対し介護予防教室を開催（参加団体54団体、実施回数101回、参加者延べ人数1,438人）するとともに、高齢者が身近な地域で楽しく健康づくりを続けることができるよう、住民主体の「通いの場」の立ち上げ支援、継続支援を行った。

65歳以上の中・重度要介護認定者の割合(%)

= 要介護3～5認定者数÷要支援1～2・要介護1～5認定者数×100

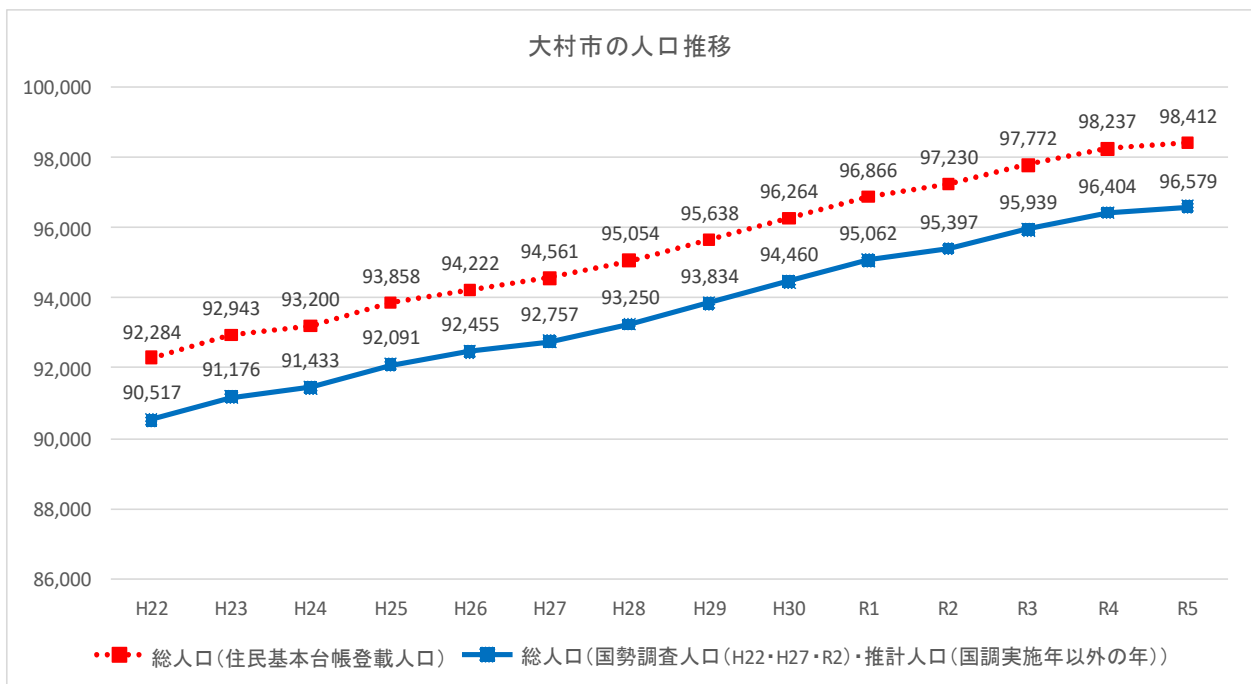
<参考1> 第2期大村市まち・ひと・しごと創生総合戦略 数値目標・重要業績評価指標(KPI)一覧(年度毎)

基本目標	○数値目標 / ●KPI	数値目標及びKPI年次計画値					
		2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
1 結婚・ 出産・ 子育ての 希望を かなえ るま ちづ くり	○合計特殊出生率 2025年までに2.00 (2018年:1.90)	1.90	1.92	1.94	1.96	1.98	2.00
	●お見合いシステム、縁結び隊による引き合わせ数 各年度120組 (2018年度:98組)	120	120	120	120	120	120
	●妊婦健診受診率 2025年度までに97.0% (2018年度:95.9%)	95.4	95.7	96.0	96.3	96.6	97.0
	●待機児童数 各年度0人 (2018年度:70人)	0	0	0	0	0	0
	●放課後児童クラブを利用する児童数 2025年度までに2,317人 (2018年度:1,746人)	2,241	2,261	2,285	2,299	2,317	2,317
	●子育て支援センターの利用者数 各年度142,000人 (2018年度:113,468人)	142,000	142,000	142,000	142,000	142,000	142,000
	●全国学力・学習状況調査平均正答率の全国比 (全国を100とした値) 各年度100.0以上 (2019年度:中国97.0、中数97.8、中英93.8、小 国93.8、小算94.5)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
●学校評価のふるさと教育の項目において、「よい」 と評価した児童生徒の割合 2025年度までに76.0% (2019年度:71.6%)	72.0%	72.5%	73.0%	74.0%	75.0%	76.0%	
2 安心し て働 ける ま ちづ くり	○大村市産業支援センター又は創業塾を介した創 業件数 2025年度までに累計105件 (2019年度:累計74件)	80	85	90	95	100	105
	○新工業団地への就業者数 2025年度までに1,000人 (※2019年4月分譲開始)	500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	○農林水産業の新規就業者数 各年度16人増加 (2018年度:16人)	16	16	16	16	16	16
	●じげたまグランプリ(隔年開催) 出展商品数 2025年度までに20点/年 (2019年度:14点/年)	14	16	16	18	18	20
	●産業支援センターへの年間相談件数 各年度900件 (2018年度:853件)	900	900	900	900	900	900
	●大都市での物産展来場者数 2025年度までに30,000人 (2018年度:30,106人)	24,500	25,500	26,500	27,500	28,500	30,000
	●市内高校卒業者の市内企業への就職率 2025年度までに20.0% (2019年度:16.5%)	16.9	17.2	17.9	18.6	19.3	20.0
	●新工業団地売却区画数 2025年度までに4区画 (2019年度:1区画)	2	4	4	4	4	4
	●大村市シルバー人材センター会員数 2025年度までに900人 (2018年度:732人)	750	780	811	843	876	900
	●認定農業者数 2025年度までに300人 (2018年度:223人)	255	267	280	287	294	300
	●認定農業者の平均農業所得 2025年度までに520万円 (2018年度:435万円)	460	472	484	496	508	520
	●農業及び水産業イベント来場者数 2025年度までに28,000人 (2018年度:27,000人)	27,000	27,250	27,500	27,700	27,850	28,000
●市産品応援店数 2025年度までに10件 (2018年度:0件)	5	6	7	8	9	10	

基本目標	○数値目標 / ●KPI	数値目標及びKPI年次計画値					
		2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
3 住 ん で み た い ま ち づ く り 訪 れ て み た い	○観光客延数 2025年までに2,600,000人 (2018年:1,970,000人)	2,100,000	2,177,000	2,283,000	2,388,000	2,494,000	2,600,000
	●市内宿泊施設の延べ宿泊者数 2025年までに450,000人 (2018年:379,939人)	391,000	403,000	415,000	427,000	439,000	450,000
	●外国人観光客宿泊者数 2025年までに5,000人 (2018年:2,257人)	2,710	3,180	3,650	4,080	4,540	5,000
	●移住・定住相談件数 各年度120件 (2018年度:63件)	120	120	120	120	120	120
	●移住件数(大村市及びながさき移住サポートセンターを介した移住件数) 各年度36件 (2018年度:34件)	36	36	36	36	36	36
4 ひ と が 集 う 魅 力 的 な ま ち づ く り 暮 ら す こ と が で き る	○転入超過数 2025年までの6か年間で5,000人 (2018年:2014年以降5か年間で1,606人)	500	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000
	●道路や公共交通の利用に関する市民満足度 2025年度までに50.0% (2018年度:39.2%)	40.0	42.0	44.0	46.0	48.0	50.0
	●中心市街地歩行者通行量 2025年度までに7,300人/日 (2019年度:6,264人/日)	7,125	7,160	7,195	7,230	7,265	7,300
	●「道の駅 長崎街道鈴田峠」の年間利用者数 2025年度までに250,000人 (2018年度:234,552人)	246,000	246,800	247,600	248,400	249,200	250,000
	●大学等との連携協定数 2025年度までに5件 (2018年度:4件)	4	4	4	4	4	5
	●自主防災組織の結成率 2025年度までに60.0% (2018年度:54.7%)	56.5	57.2	57.9	58.6	59.3	60.0
	●65歳以上の中・重度要介護認定者の割合 各年度30.8% (2019年度:31.2%)	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8	30.8

<参考 2> 大村市の人口推移

※人口は10月1日現在



※推計人口:国勢調査時(5年毎)の人口に、毎月の出生・死亡・転入・転出を加減して算出した人口

※住民基本台帳登録人口:住民基本台帳に記録されている住民の数から算出した人口